令和7年度第2回奈良市地域福祉推進会議 議事要録		
開催日時	令和7年9月29日(月)午前10時00分から午前12時00分まで	
開催場所	奈良市役所北棟 6 階 602 会議室	
出席者	委員	山下委員長、今西副委員長、作間委員、藤本委員、
		安井委員、田中委員、松村委員、若野委員、中川委員
		【委員17名中9名出席】
	事務局	【福祉部】福祉部長、福祉部次長、福祉部参事
		福祉政策課長 他
		【奈良市社会福祉協議会】1名
開催形態	公開(傍聴0名)	
担当課	福祉部福祉政策課	

議事の内容

- 1 開会
- 2 議題
- (1) 第5次奈良市地域福祉計画に係る市民意識調査について

[質疑・意見の要旨]

議題(1)

(1) 第5次奈良市地域福祉計画に係る市民意識調査について

調査結果の分析手法について

- ・内容との関連性をクロス集計により詳細に分析する。
- ・暮らしの困りごとを把握する。
- ・社会保障制度(行政施策も含む)は認知度、利用度を把握する。
- ・調査結果の分析においては、行政への要望だけでなく、地域住民同士の支えあいに 関する意見も重視し、多角的な視点から評価する。

設問内容について

- ・専門用語を避けるべきという意見がある一方、専門用語の説明を加えることで、市民 の知識向上に繋がるという意見もある。どちらの意見を重視するか、バランスを考慮 する必要がある。
- ・留学生はアルバイトにも制限があり、日本国内の学生とは区別する方が良いと感じた。
- ・考え込まないような設問設計が良いように感じた。ただ、人により理解度も異なるため、程度の判断は難しい。
- ・「ですます」「である」が混在しており、「ですます」に統一。
- ・地域共生社会の説明にある「資源」がわかりにくい。何の資源かくだいて表現しては どうか。

- ・「今後、地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために、地域としてどのようなことに取り組む必要があると思いますか。」の回答に地域で取り組みやすい「あいさつ運動」を入れてほしい。
- ・「今後、地域福祉を向上するために、奈良市はどのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。」の回答に「高齢者の生涯学習と地域参画の促進」を入れてはどうか。 意図は、企業を引退して地域に帰ってきた人への再学習の機会を設けることで、地域 福祉の厚みや流動性の含みを持たせるべきではないか。地域の人材不足解消のため。
- ・委員自身が市民意識調査に回答してみて、専門的な内容ではなく、一般市民が分かり やすい設問設計が良いと感じた。
- ・上記以外にも多様なご意見をいただいた。

対象者について

- ・介護施設や福祉施設にも市民意識調査を広げることを提案する。
- ・一方で、介護施設や福祉施設にも来られない方に率先して市民意識調査したい。

今回の調査対象者は、広く奈良市民の方への無作為抽出での実施を前提としており、関係団体等からのご意見聴取は別途ヒアリングを実施予定としている。

・地域福祉推進会議委員からいただいたご意見をもとに、事務局で後日、市民意識調査 (案)の再修正を行い、山下委員長、今西副委員長にご承認いただいたうえで、市民 意識調査の実施を進めていくこととした。

その他

令和7年9月末をもって、奈良市地域福祉推進会議委員の任期が満了となった。17名 中14名は継続での就任となるが、池口委員、西村委員、福本委員は委員変更となる予 定である。